

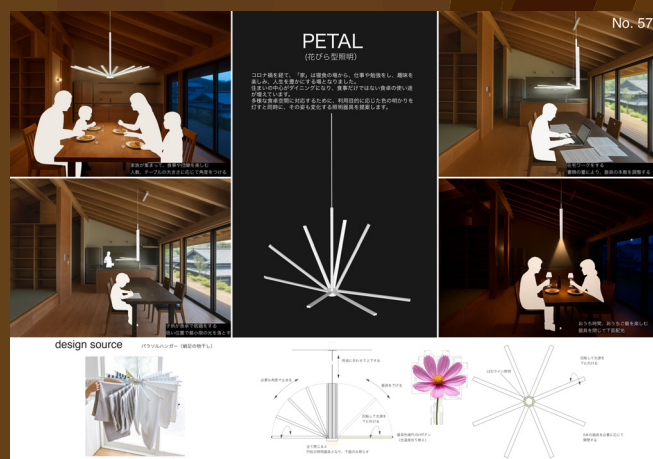
井上 久実
Inoue Kumi

プロフィール

1990年 大阪市立大学生生活科学部住居学科卒業
1990年～1998年 大林組本店設計部
1998年～1999年 ロンドン在住
2000年 井上久美設計室開設

作品名：PETAL

コロナ禍を経て、「家」は寝食の場から、仕事や勉強をし、趣味を楽しむなど、人生を豊かにする場へと変化しました。家族にとって住まいの中心がダイニングになり、食事だけではなく食卓の使いが増えています。多様な食卓空間に対応するために、食卓の利用目的に応じた色や照度の明かりを灯すと同時に、その姿も美しく変化することで、食卓空間をより豊かにする照明器具を提案します。

山本アア
YamamotoAA

プロフィール

1988年、京都出身。生物学を専攻した後、2015年に京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)を卒業。同年、株式会社キュリオシティに入社。2022年よりフリーランスとして活動。可能性を広げる体験をテーマに、プロダクト、グラフィック、パッケージ、インテリアなどのデザインを手がける。富山デザインコンペティション2023グランプリ受賞。

https://www.instagram.com/aa_yamamoto/

作品名：FLORA

食事のメニューや座る人によって、常に変化し続ける食卓という空間のための照明です。円筒状の光源部分、ラッパ型のガラスシェード、ガラス棒によって構成されています。ガラス棒をブーケのように束ねたり、生花の投げ入れのようにシェードに立てかけたり、シェードを台に花を捧げるように横に並べたりすることによって、その日の気分や雰囲気に合わせて食卓を花で飾るように光をアレンジ出来ます。

16th
建築家の
あかり
コンペ 2025

Architectural Lighting Design Competition 2025

入選者一覧

募集作品テーマ 食卓のあかり
LED照明スロダクトコンペ

賞

最優秀賞

1点(副賞30万円)

優秀賞

1点(副賞15万円)

佳作賞

3点

公開審査・表彰式

- 開催日時 2025年11月19日(水)
18:00～20:40 (開場17:30)
- 開催場所 建築家会館1階ホール
東京都渋谷区神宮前2-3-16

審査委員長

小堀 哲夫
(小堀哲夫建築設計事務所)

審査委員

金野 千恵
(teco)松尾 和生
(日本設計)早川 亜紀
(灯デザイン)有馬 郁恵
(大光電機)

入選者

First round selection winners

山田 寛
Yamada Hiroshi一級建築士事務所
LoHA 代表

プロフィール

学歴
2009年 福井大学工学研究科修士課程修了職歴
2009年～2015年 株式会社石本建築事務所
2018年 一級建築士事務所 LoHA開設
2018年より福井工業大学非常勤講師
2019年より福井大学非常勤講師

作品名：おおきなおおきなランプシェード

これは、ランプシェードをとっても大きくしたものです。
とても大きくなったランプシェードの中に入ると、テントの中にいるかのように、やさしい光とともに身体が包みこまれます。
この製品は、ランプシェード以上テント未満の製品です。やさしい光と空間に包みこまれて
今日も食卓の会話は、はずんでおります。



作品名：みなものあかり

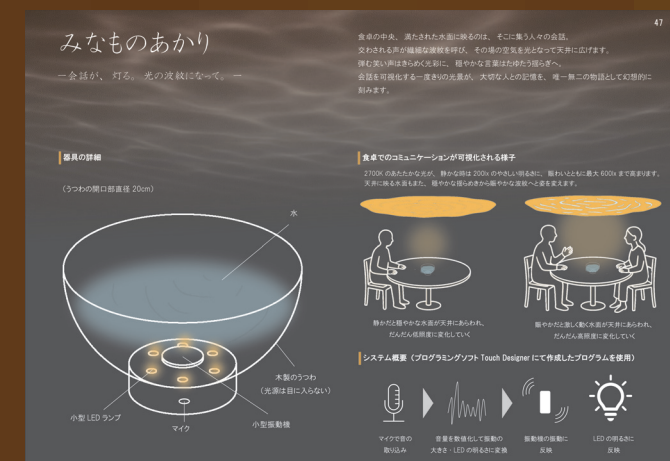
中山 実咲
Nakayama Misaki

東京都市大学

プロフィール

2025年 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科卒業。
現在、同大学大学院 総合理工学研究科 建築都市デザイン専攻 建築光環境 小林研究室に所属。人の行動に反応する光が人の心理に与える影響について研究を行う。

会話が、灯る。光の波紋になって。
食卓の中央に置かれた水皿の下に仕込まれた振動子とLEDライトが、会話の声に反応して水面を揺らし、明るさを変え、その光を天井に映し出します。
笑い声が響けば明るくきらめく光が広がり、静かな言葉は落ち着いた光とやわらかな揺らぎとなって漂います。
料理の香りや温もりと重なり合い、大切な人との時間をやさしく彩ります。
光源は直接目に入らず、あたたかな色味が料理と人々の表情を自然に引き立てます。
フォークの音やグラスの触れ合いもまた光の物語となり、日常の食卓を特別なひとときへ導きます。

石尾 文
Ishio Aya山口大学
工学部感性デザイン工学科
建築・都市デザイン研究室

プロフィール

学歴
2021年3月広島市立基町高等学校卒業
2022年4月山口大学工学部入学

作品名：OKAERI Light (おかえりライト)

後から食べる人のために、ほこりや虫から料理を守る蠅帳は、料理を作った人の愛のかたち。
その蠅帳をモデルにした OKAERI Light は、光のテントのように料理を守り、遅く帰る人をやさしく迎えるあかりです。
仕事や勉強を終えて帰宅した人は、薄暗い部屋にともる光に、自分を待っていてくれる存在の温もりを感じます。
ヒモを引けばテントが開き、電球が点灯。時間の経過とともに光は少しずつ弱まり、その変化が「待っていた時間」を可視化し、待つ人の存在をより強く意識させます。
仕事で帰りが遅くなったパートナーや、塾帰りの受験生。
そんな人々を待ち、支えている存在への感謝を表す場こそ、この食卓のあかりなのです。

